

第4章

青梅市教育委員会の 学力向上に関わる取組について

I 青梅市教育委員会の学力向上に関わる取組について

青梅市教育委員会では、教育目標にある「自ら学びを考え行動する、個性と創造力豊かな人間」の育成および青梅市教育推進プラン（改訂版、平成 23 年 3 月）の柱 2「社会のよき形成者となるために」の(3)自ら学び、自ら考える力を育成する、提言 1「学力向上に向けた取組の推進」を踏まえ、次のような取組を行っている。

1 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の実施

児童・生徒の「確かな学力」の定着と伸長を図るために東京都教育委員会が実施している「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施し、その分析結果を基に、学力向上施策の充実を図り、市内各小・中学校における授業改善を推進する。

2 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の報告書の作成

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の分析を行うことにより、課題を明らかにした。報告書を、市内各小・中学校に配布し、学校における授業改善の具体的な取組を支援する。

3 「力だめしドリル」の作成

平成 25 年度から平成 27 年度の「全国学力・学習状況調査」の問題を再編集し、児童・生徒が問題の傾向に慣れること、各教科の平均正答率を上げることを目的に作成した。朝学習などで使用する市販のドリル等と同じように、A 問題や B 問題を朝学習等の短時間で扱うために、小学校第 4 学年、第 5 学年、中学校第 1 学年、第 2 学年の児童・生徒に配布した。

4 「授業改善推進プラン」にもとづく授業改善

市内全小・中学校に対して、国や都の学力調査の結果や第 1 学期の児童・生徒の学習状況、評価の結果等を基にした「授業改善推進プラン」の作成を依頼し、活用することで授業改善を推進している。

5 学力向上推進年間指導計画にもとづく学力向上施策の推進

市内全小・中学校に対して、学力向上に関する課題解決に向けた年間指導計画の作成を依頼し、計画的に取り組むことで学力向上を推進している。

6 青梅市教育委員会研究指定校の設置

教育課程の実施に伴う学校の教育課題を焦点化し、実践的な教育活動についての研究を通し、特色ある学校教育の創造に向けた提言を市立各学校および保護者、地域に行う。このことによって、青梅市の学校教育の活性化を図るとともに教育水準を高め、開かれた学校づくりを推進する。

7 「学力向上推進委員会」の設置

青梅市の学力向上施策に関する検討を行う委員会（各小・中学校の代表、担当校長、副校長から構成）を設置することにより、青梅市教育委員会と学校との連携を強化する。

8 学校訪問の実施

教育委員会訪問や指導室訪問等を通して各校の授業改善の取組状況を確認するとともに指導・助言を行う。

9 小・中学校教育研究発表会の開催

青梅市立小・中学校の個人、団体等において推進する研究の成果を発表し、本市の学校教育の充実・向上を図ることを目的とする。平成 27 年度より実施している「学力ステップアップ推進地域指定事業」についても、小・中学校より 1 校、本事業の実践報告を行い、基礎学力の定着を推進する。

平成28年度 青梅市教育委員会 学力向上5カ年計画

施策等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標
家庭学習の定着および充実	児童・生徒向けの啓発資料の作成	児童・生徒、保護者への啓発資料の見直し、配布	配布	児童・生徒、保護者への啓発資料の見直し、配布	配布	→
習熟度クラスおよび少人数クラスの導入	新規導入校の検討	指導方法の工夫・改善			各校ごとのPTA主催家庭学習の研修会	→
放課後授業および土曜日授業の推進	・サタデースクール実施要領の策定 ・対象校の選定 第二中学校区 第三中学校区	2中学校区でモデル的試行 第1回実態調査・分析	6中学校区に拡大して実施	全市的に実施 第2回実態調査・分析	→	次期事業計画の策定
都の学力向上関連事業の活用	学力パートナーシップ事業(第二中学校区)	→ 発表 成果検証、他校に活用	学力ステップアップ推進地域指定	→ 学力ステップアップ 成果検証	→	学力ステップアップ成果検証
学力向上推進委員会による取組	学力調査の分析、授業改善策の提示(報告書の作成)	→ 保護者・市民向け家庭学習講習会			各校ごとのPTA主催家庭学習の研修会	→
学力向上のための長期計画	5カ年計画の策定	施策ごとの細部調整	見直し	施策ごとの細部調整	次期計画の策定	
学校による学力向上推進計画の策定	計画案を学校に例示	学力向上推進計画の全校策定	学校訪問等における指導・助言	効果的な取組の他校への情報提供 学力向上推進計画の見直し	次期計画の策定	
全国学力調査等の市の平均正答率等公表	全国結果の公表(広報・HP)	分析結果を付してHP公表			→	
	都結果の公表(HP)	学力向上推進委員会報告書のHP掲載			→	

東京都の平均正答率を上回る

Ⅲ 学力向上推進委員会の取組

平成28年度 学力向上推進委員会について

1 目的

各校における学力向上策および具体的な授業改善策を踏まえ、青梅市としての学力向上に向けた取組について検討を進め提言する。

本年度の活動の重点は、昨年度に設定したテーマ「主体的に学習し考える力を育む授業づくりを具現化する手だての検証」のさらなる追究とする。

2 これまでの経緯

平成18・19年度	平成20・21年度	平成22年度	平成23年度
・諸調査の分析 ・分析結果にもとづく授業改善事例の提示	・授業改善プランの検証結果の分析 ・授業による検証結果を経た授業改善事例の提示	・平成21年度までの授業改善事例の検証 ・新学習指導要領への対応（言語活動の充実）	・基礎的・基本的な学力の定着に向けた指導資料の作成 ・教科ごとの授業実践による検証
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
・家庭学習のすすめ（保護者版）の作成 ・児童・生徒の実態に即した学力向上策の立案	・家庭学習のすすめ（児童・生徒版）の作成 ・学力調査における各教科の課題と問題の分析	・課題解決をするために必要な「考える力」を育む授業づくりを具現化する手立てを検証する。	・主体的に学習し考える力を育む授業づくりを具現化する手立てを検証する。

3 平成28年度 学力向上推進委員会の取組

平成27年度の各校における「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都）」の分析結果等を踏まえ、継続して「主体的に学習し考える力を育む授業づくりを具現化する手立ての検証」とする。

（1）平成28年度 学力向上推進委員の構成について

- ・青梅市学力向上アドバイザー
東京女子体育大学常任理事・教授 田中 洋一先生
- ・担当校長2名（小学校1名、中学校1名）担当副校長2名（小学校1名、中学校1名）
- ・学力向上推進委員（教員）28名
※各小・中学校長は1名を委員として推薦する。
※中学校区を中心に5グループに編成し、それぞれのグループで「主体的に学習し考える力」を育む検証授業を行う。

（2）共通主題

「主体的に学習し考える力を育む授業づくり」

（3）指導法の検討（検証授業と検証授業の分析）

- ・検証授業の実施
推進委員による小・中学校での検証授業を通して、指導法の有効性や課題を明らかにする。
- ・検証授業の分析・考察
検証授業を基に、設定した指導法（手立て）の有効性等について分析・考察し、授業改善に資する提案を考案する。

4 年間活動計画

	月・日（曜日）	主 な 内 容
1	5月23日（月）	※1 第1回青梅市学力ステップアップ推進地域指定事業連絡協議会を兼ねる。
2	6月3日（金）	東京女子体育大学常任理事・田中洋一教授による講義 グループ毎に学習指導案の検討
3	9月9日（金）	東京女子体育大学常任理事・田中洋一教授による講義 グループ毎に学習指導案の検討 ※1 第2回青梅市学力ステップアップ推進地域指定事業連絡協議会を兼ねる。
4	10月18日（火）	※2 研究授業1
5	11月10日（木）	※2 研究授業2
6	2月17日（金）	1年間のまとめ 東京女子体育大学常任理事・田中洋一教授による講義等 ※1 第3回青梅市学力ステップアップ推進地域指定事業連絡協議会を兼ねる。

※1 第1回、第3回、第6回は青梅市学力ステップアップ推進地域指定事業連絡協議会を兼ねる。

※2 学力向上推進委員全員が揃う研究授業は年2回を予定。各推進委員は、指導法の検討の過程で検証授業を1回行う。その際、グループの推進委員は、授業を参観し協議を行う。

5 学力向上推進委員の構成について

- 青梅市学力向上アドバイザー 東京女子体育大学教授・常任理事 田中 洋一 先生
- 基礎学力定着アドバイザー 宇津木 順一 先生
- 元木 靖則 先生
- 学力向上推進委員会 担当校長 第四小学校長 則末 久美子
- 第七中学校長 石田 重久
- 学力向上推進委員会 担当副校長 吹上小学校副校長 曾我 泉
- 西中学校副校長 廣瀬 尊貴
- 学力向上推進委員会 推進委員

1	第一小学校	松村 友子	15	藤橋小学校	棚橋 孝成
2	第二小学校	松井 優子	16	吹上小学校	廣部 孝行
3	第三小学校	小林 智彦	17	東小学校	相山 善祈
4	第四小学校	村野 聡	18	第一中学校	臼杵 英俊
5	第五小学校	大澤 析	19	第二中学校	西田 沙恵子
6	第六小学校	荒巻 智子	20	第三中学校	谷口 亜衣
7	第七小学校	倉田 輝	21	西中学校	相川 拓也
8	成木小学校	藤井 繭子	22	第六中学校	笹川 眞帆子
9	河辺小学校	肥後 友輝	23	第七中学校	東 裕志
10	新町小学校	有泉 力	24	霞台中学校	堀越 義智
11	霞台小学校	比留間 一浩	25	吹上中学校	栗原 涼
12	友田小学校	阿部 久仁子	26	新町中学校	横倉 卓
13	今井小学校	佐藤 雅史	27	泉中学校	高部 克洋
14	若草小学校	蓮尾 幸枝	28	東中学校	長沢 桐奈

6 研究授業について（研究テーマ等）

<研究テーマ>

主体的に学習し考える子供を育む授業づくり

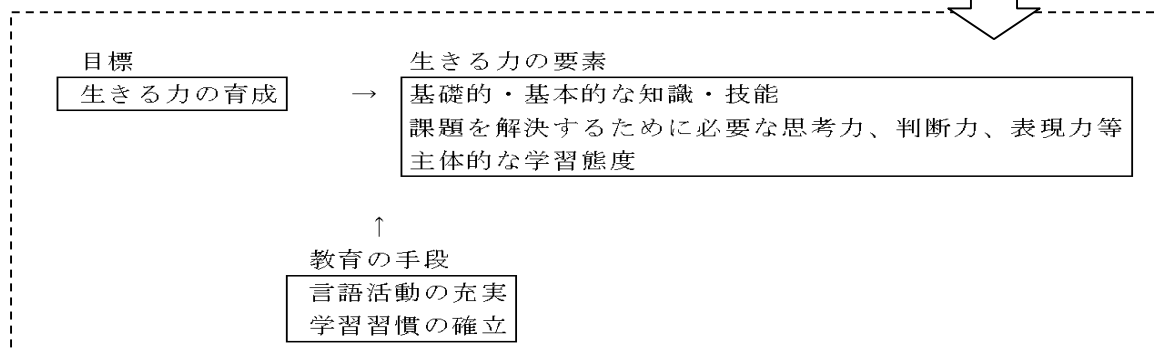
（１） 学習指導要領が求める学力（総則教育課程編成の一般方針）

※東京女子体育大学教授 田中洋一先生の資料より

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒（児童）に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒（児童）の発達段階を考慮して、生徒（児童）の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒（児童）の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

※下線および網かけはアドバイザー

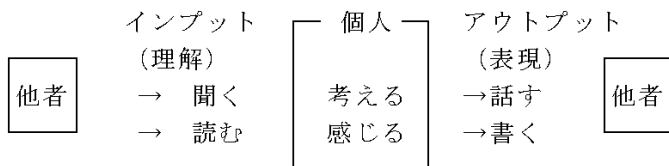
学習指導要領の各教科に言語活動を伴う学習が明記された



※「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」、「学習意欲」のバランスが大切であり、この3要素が相乗効果をもたらす。

（２） 言語のはたらき、「伝達」と「思考」について

言語のはたらき
「伝達」と「思考」



言語が伝え合う媒体であると同時に、「考える、感じる」際の道具となる。

「声を大きく」「相手の顔をみて」などは伝達の技術「話す内容をまとめて」「相手に分かりやすく」「説得力をもって」などは思考を伴う活動となる。

(3) 子供が主体の授業づくりについて

ア 学習の流れ

	『子供主体の授業』の展開例		具体的な指導例
導入	☆ 子供たちが見通しをもつ 課題を把握する 学習課題をつかむ場面を設定した □ 子供たちは課題をつかんでいた。 □ 子供たちは解決の見通しをもつことができた。		○ 子供たちの関心・意欲を高めたり、不都合感を感じさせたりする問題を提示した。 ○ 子供たちが課題をつかんだタイミングで課題を板書した。 ○ 見通しについて、ペアで相談させたり、前で説明させたりして、既習内容を思い出させ、全ての子供に解決の見通しをもたせた。
展開	☆ 子供たちが問題解決を図る 一人で考える場面を設定した □ 子供たちは考えを書いたり、表したりしていた。		○ 子供たちが考える適切な時間を設定した。 ○ 机間指導を行い、個に応じた頑張りを認め、適切な声かけができた。 ○ 必要に応じて、意図的に指名をした。
	☆ 子供たちの知識や考えを深める活動 集団で交流する場面を設定した □ 子供たちは、自分の考えとその理由を伝えていた。 □ 子供たちは、学習課題を意識した発表や話し合いをしていた。		○ ペアで考えを伝え合う時間をつくる等、一人一人に考えを発表させた。 ○ 子供のノートをスクリーン等に映し出して前で発表させる等、学習のゴールを意識した発表をさせた。 ○ 発問の後に数秒の間をとって指名したり、ペアで話し合わせたりして、全員が考えを深められるようにした。
まとめ	☆ 子供たちが学んだ知識や技能を振り返る(つかう) ふりかえる場面を設定した □ 子供たちは、学んだことを自分の言葉で書いたり、発表したりできた。 □ 子供たちは、学んだことを使うこと(確認問題等)ができた。		○ 授業の流れがわかる板書ができた。 ○ 課題を主語にして書かせる、キーワードを入れて書かせる等、まとめ方を工夫させた。 ○ 本時の学習を確かめる確認問題(宿題)等を出した。

イ 子供たちに力を付けさせる授業の要素

【教師の視点】(※力とは、基礎的・基本的な知識および技能、思考力・判断力・表現力等)

- ・身に付けさせる「力」が明確になっている。
- ・「力」を付けさせるための手だてが準備されている。

- ・「教えて考えさせる指導」が行われている。
- ・「力」が付いたかどうか、適切に評価され、指導に生かされている。

ウ 子供たちにとって学びがいのある授業の構成要素

【子供の視点】（※学びがいのあるとは、学習意欲がわいてくる授業）

- ・子供たち自身が、本授業によってどのような力が身に付き、実生活や実社会にどう生きるのか理解している。
- ・学び方が分かる（主体的に「自分の考え」を記述するなど）
- ・教材が魅力的である。
- ・適度な難易度である。
- ・頑張れば認めてもらえる。

（４）授業観察シート

【教科 】 ： から ： まで参観 年 月 日 記入者					
授業観察シート【主体的に学習し考える子供を育む授業づくり】				授業者	
番号	項 目	当てはまる まで	当てはまる ほとんど	あまり 当てはまる	当てはまる ほとんど
		4	3	2	1
		4	3	2	1
		4	3	2	1
		4	3	2	1
		4	3	2	1
自由記述欄(気付いた点とアドバイス)					

番号	☆授業観察の具体項目
1	授業のねらいが焦点化されている。
2	教師は、子供が身に付ける「力」を明確に示し、指導している。
3	教師は、子供が「力」を身に付けるために手だてを準備している。
4	教師は、子供に「力」が付いたか、適切に評価し、指導に生かしている。
5	教師は、子供の習熟度に応じた指導を行っている。
6	教師の発話、学習形態、学習環境等によって、子供たちは主体性をもって学習に取り組んでいる。
7	教師は、「教えること」、「考えさせること」を明確に区別し、両者を関連付ける指導を工夫している。
8	教師は、授業内でより分かりやすく教える工夫をしている。
9	子供にとって、準備した教材は魅力的である。
10	子供にとって、授業の難易度は適度である。
11	子供は、授業のねらいが分かり、授業内で「力」を付けている。
12	教科のねらいを達成するために言語活動を取り入れている。
13	評価規準が、「力」を付けた子供(評価観点B)の姿となっている。
14	観点別評価状況のAおよびCの子供に対応する手だてが準備されている。
15	学習形態等の工夫により、子供が主体的に学習している。
16	学習環境等の整備が学習の一助となっている。

- ※ 学力向上推進委員会では、中学校区を中心にした5グループで研究協議を進めてきた。授業観察の際には、「教師の視点」、「子供の視点」をもとにした「授業観察シート」を活用した。
- ※ 教科に関係なく、学習過程を「1 課題をつかむ→2 一人で考える→3 集団で交流→4 振り返り」とした。このシートをもとにグループ協議・発表を行い、田中教授から指導・講評をいただいた。

教師の視点

○子供に身に付く「力」とは？
・学習指導要領の指導事項をもとに、子供に身に付く「力」を明らかにする。

教師1 子供に身に付ける「力」が明確になっている
○ねらいの焦点化
・単元（題材）、本時のねらいに、身に付ける「力」を明確に明記する。
・活動自体を目的とせず、活動を通して「力」をつけることを目的とする。
○効果的かつ自覚的な学習活動の展開
・子供たちが、活動を通してどのような「力」が付くのが分かるようにする。
○ねらいをどのように提示するか？
・子供が、この時間何が分かればいいのか、どう活動しているのが分かるねらいを具体的に示す。
・既習事項の活用

教師2 教えること、考えさせることの明確な区別
○より分かりやすく教える工夫
・「教える」ことは、子供が自ら学び考えるために必須です。教えるべきことを分かりやすく教え、それらを活用して考えさせるようにする。

教師3 「力」を付ける手だてが準備されている
○問題解決的な学習、個に応じた指導、言語活動 等
・指導の工夫が、当該教科等固有のねらいの達成に結びつくようにする。

教師4 「力」が付いたかどうか？適切に評価され、指導に生かされている
○適切な評価規準の設定と活用
・評価規準とは、「力を付けた子供の姿（観点別評価B）」の姿。
○観点別学習状況の評価 A および C の子供に対応する手だて
・A および C の子供それぞれに対する具体的な手だてを準備する。

<指導計画の作成、授業観察の視点>

共通主題 「主体的に学習し考える子供を育む授業づくり」		
『子供主体の授業』の展開例		具体的な指導例
指導 展開 まとめ	☆子供たちが見通しをもつ 課題を把握する 学習課題をつかむ場面を設定した	○子供たちの関心・意欲を高めたり、不都合を感じさせたりする問題を提示する。 ○子供たちが課題をつかんだタイミングで課題を板書した。 ○見通しについて、ペアで相談させたり、前で説明させたりして、既習内容を思い出させ、全ての子供に解決の見通しをもたせた。
	子供に身に付く「力」とは？ 教師1 ねらいの焦点化 □子供たちは課題をつかんでいた。 □子供たちは解決の見通しをもつことができた。	
	○「教えて考えさせる指導」が行われている 教師2 教えることと考えることを関連付ける	○子供たちが考える適切な時間を設定した。 ○机間指導を行い、個に応じた頑張りを認め、適切な声かけができた。
	☆子供たちが問題解決を図る 一人で考える場面を設定した ○「力」を付ける手だてが準備されている 教師3 問題解決的な学習 等 □子供たちは考えを書いたり、表したりしていた。 ○言語活動 ☆子供たちの知識や考えを深める活動例 集団で交流する場面を設定した □子供たちは、自分の考えとその理由を伝えていた。 □子供たちは、学習課題を意識した発表や話し合いをしていた。	○ペアで考えを伝え合う時間をつくる等、一人一人に考えを発表させた。 ○子供のノートをスクリーン等に映し出して前で発表させる等、学習のゴールを意識した発表をさせた。 ○発問の後に数秒の間をとって指名したり、ペアで話し合わせたりして、全員が考えを深められるようにした。
	☆子供たちが学んだ知識や技能を振り返る（つかう） 振り返る場面を設定した □子供たちは、学んだことを自分の言葉で書いたり、発表したりすることができた。 □子供たちは、学んだことを使うこと（確認問題、適応問題等）ができた。	○授業の流れがわかる板書ができた。 ○課題を主語にして書かせる、キーワードを入れて書かせる等、まとめ方を工夫させた。 ○本時の学習を確かめる確認問題（宿題）等を出した。

子供の視点

子供1 身に付く「力」とその価値が分かる
○実社会や実生活との関わりを重視する
・子供たち自身が、当該の学習によってどのような力が身に付き、実生活や実社会にどう生きるのかについて、理解して学習を進めることで、より学習効果上がる。

子供3 教材が魅力的である
○知的好奇心を喚起するものである
○探究のしがいがある
・子供の実態に照らし合わせて、十分に吟味するとともに、ねらいの実現に向けて、効果的な活用方法を研究する。（教材研究）

子供2 学び方が分かる
○ノートは思考の足跡
・友達の考えや新しい発見を加えながら、「自分の考え」を更新させる。

子供3 教材が魅力的である
○知的好奇心を喚起するものである
○探究のしがいがある。

子供4 適度な難易度である
※適度な難易度とは、子供の力のレベルよりもやや上のレベルを指す。
○苦手な子供、得意な子供の立場にたつ
○習熟に応じた指導
○個に応じた指導

子供5 頑張れば、認めてもらえる
○子供と教師の信頼関係の確立
○認め合い、支え合い、励まし合う学習集団の風土の醸成
○個人内評価の重視
・子供一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価しようとするもの。

平成 28 年度 学力向上推進委員会 検証授業一覧

○第 1 グループ

検証授業実施日	学校名	教科名	単元（題材）名
平成 28 年 10 月 6 日（木）	第一小学校	国 語	目指せ読み書き名人
平成 28 年 10 月 13 日（木）	第二中学校	理 科	水溶液とイオン
平成 28 年 11 月 8 日（火）	友田小学校	社 会	私たちの暮らしを支える政治
平成 28 年 11 月 10 日（木）	第一中学校	理 科	生物の進化
平成 28 年 12 月 8 日（木）	第二小学校	国 語	伝えられてきたもの「狂言 柿山伏」
平成 29 年 1 月 19 日（木）	第四小学校	社 会	世界とつながる東京

○第 2 グループ

検証授業実施日	学校名	教科名	単元（題材）名
平成 28 年 9 月 30 日（金）	新町中学校	社 会	経済の成長と幕政の改革
平成 28 年 10 月 27 日（火）	今井小学校	理 科	水溶液の性質と変化
平成 28 年 11 月 17 日（木）	藤橋小学校	算 数	図形の角
平成 28 年 11 月 22 日（火）	第三小学校	社 会	平和で豊かな暮らしをめざして
平成 28 年 1 月 31 日（火）	新町小学校	算 数	算数の筆算（2）
平成 29 年 2 月 9 日（木）	第三中学校	国 語	未来へ向かって

○第 3 グループ

検証授業実施日	学校名	教科名	単元（題材）名
平成 28 年 9 月 23 日（金）	吹上小学校	算 数	どんな計算になるかな
平成 28 年 10 月 24 日（月）	第五小学校	算 数	計算のきまりを調べよう
平成 28 年 11 月 16 日（水）	吹上中学校	数 学	1 次関数の利用
平成 28 年 11 月 29 日（火）	第六小学校	自立活動	ミックスボイス
平成 28 年 12 月 6 日（火）	西中学校	社 会	近畿地方～歴史的背景を中心とした考察～

○第 4 グループ

検証授業実施日	学校名	教科名	単元（題材）名
平成 28 年 9 月 20 日（火）	第七小学校	算 数	水溶液の性質
平成 28 年 10 月 27 日（木）	第七中学校	技 術	ダイナモウッディラジオの制作
平成 28 年 11 月 21 日（月）	成木小学校	国 語	ことばをみつけよう
平成 28 年 11 月 25 日（金）	第六中学校	英 語	Lesson 7 Sports for everyone

○第 5 グループ

検証授業実施日	学校名	教科名	単元（題材）名
平成 28 年 9 月 21 日（水）	泉中学校	数 学	1 次関数の式の求め方
平成 28 年 10 月 18 日（火）	若草小学校	算 数	速さの表し方を考えよう
平成 28 年 12 月 13 日（火）	霞台小学校	算 数	九九をつくろう
平成 29 年 1 月 23 日（月）	霞台中学校	数 学	空間における位置関係を考えよう

IV 学力ステップアップ推進地域指定事業の取組

東京都教育委員会は、小・中学校の算数、数学、理科における教員の指導力向上、児童・生徒の基礎学力の定着を目的として、学力ステップアップ推進地域指定事業を、平成27年4月より実施している。

青梅市は、東京都教育委員会より学力ステップアップ推進地域指定を受け、平成27年4月1日より平成30年3月31日までを実施期間として本事業を行うこととなった。以下に、青梅市で行っている学力ステップアップ推進地域指定事業の取組を記す。

1 放課後・長期休業日等の補習実施

市内小・中学校の放課後、長期休業日等で、算数、数学の補習を実施する。補習の参加対象児童・生徒は「全国学力・学習状況調査」、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の学力D層に位置付く児童・生徒を中心に募集、実施し、基礎学力の定着を図る。

2 外部指導員の活用

補習学習では、外部指導員（大学（院）生、退職教員、地域人材等）が、東京ベーシック・ドリルや学校が準備した教材等を活用し、補習に参加した児童・生徒の学習支援を行う。

3 基礎学力定着アドバイザーの活用

基礎学力定着アドバイザー（宇津木順一先生、元木靖則先生）が、小・中学校の要請に応じ、教員の算数、数学、理科の指導力向上に関わる支援として、算数、数学、理科の授業観察や校内研修会の講師として指導・助言を行う。

4 授業アンケート調査、理科意識調査、東京ベーシック・ドリル診断シートによる検証作業

各小・中学校において市独自の授業アンケート調査、理科意識調査の実施、東京ベーシック・ドリル診断シートの活用を行い、本市の学習状況等について検証を行う。

5 連絡協議会の開催

学力向上推進委員会を学力ステップアップ推進地域指定事業連絡協議会として年間3回実施し、各小・中学校における学力ステップアップ推進地域指定事業の進捗状況の確認や情報共有を推進する。

6 青梅市小学校教育研究会・青梅市中学校教育研究発表会における実践報告

青梅市小学校教育研究発表会、青梅市中学校教育研究発表会において、本事業の実践事例を報告し、本事業実施における成果と次年度の改善に向けて周知を図る。

平成27～29年度 学力ステップアップ推進地域指定事業の概要について

趣旨

学力ステップアップ推進地域(以下「推進地域」という。)として指定した区市町村に、3年間外部人材の派遣を行い、小・中学校の算数・数学、理科における教員の指導力向上、算数・数学における児童・生徒の基礎学力の定着を図る。さらに、推進地域での成果を全都に普及することにより、都内公立小・中学校の児童・生徒の基礎学力の定着を図る。

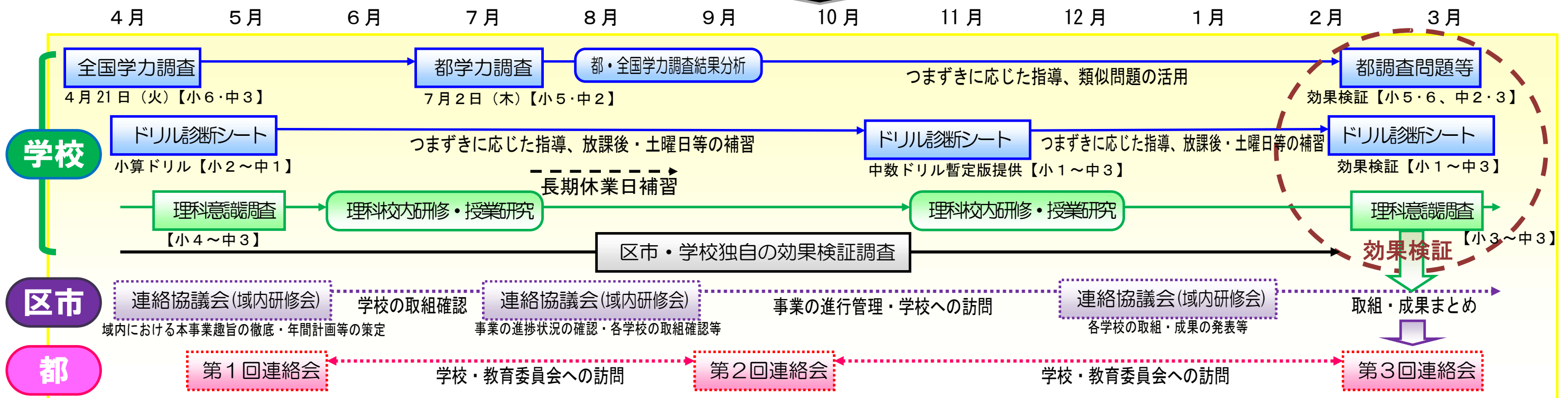
葛飾区・立川市・青梅市・福生市・東大和市・東久留米市・武蔵村山市・多摩市・羽村市・あきる野市

地域の小・中学校の取組

- 地域人材等による教員の算数・数学、理科の指導力向上(校内研修、授業研究等)
⇒ 基礎学力定着アドバイザー派遣
- 補習(放課後、土曜日、長期休業日等)による児童・生徒の基礎学力の定着
⇒ 外部指導員の派遣

区市教育委員会の取組

- 連絡協議会(域内の研修会)の開催(年2回程度)
＜主な内容＞学力ステップアップ推進地域の趣旨
各学校の取組・成果等の普及
※具体的な取組を明らかにし、成果を数値で示す



都教育委員会の支援

- ◇推進地域への支援
 - ・外部人材の配置
 - ・学校・教育委員会への訪問(指導・助言)
- ◇全公立小・中学校への支援
 - ・推進地域での成果の周知(指導資料配布、ホームページ掲載)

事業委託費 11,990 千円(1地域当たり)

- ◇人件費
 - ・基礎学力定着アドバイザー、外部指導員の派遣 及び それに付随する経費
- ◇消耗品費、使用料及び賃借料、印刷費、役務費
 - ・教材・書籍等の購入費、会議開催費、製本費、通信運搬費など

参考資料

平成28年度 全国学力・学習状況調査の概要について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象

小学校第6学年
中学校第3学年

(3) 調査の内容

①教科に関する調査（国語，算数・数学）

- ・国語A、算数・数学A：
主として「知識」に関する問題を中心とした出題
- ・国語B、算数・数学B：
主として「活用」に関する問題を中心とした出題

②質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(4) 調査の方式

悉皆調査（対象者全てに行う調査）

(5) 調査日時

平成28年4月19日（火）

(6) 調査を実施した学校・児童生徒数

【小学校調査】 学校数 児童数

青梅市（全国）

17校（19,522校） 1,131人（1,034,957人）

【中学校調査】 学校数 生徒数

青梅市（全国）

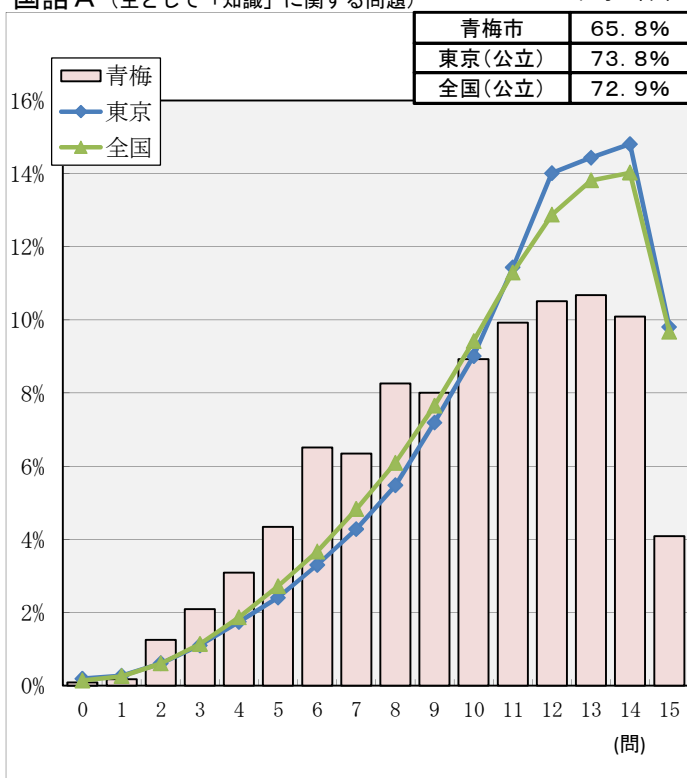
11校（9,906校） 1,110人（1,038,129人）

平成28年度「全国学力・学習状況調査」教科別正答数分布(小学校)

グラフの縦軸：人数の割合、横軸：正答数

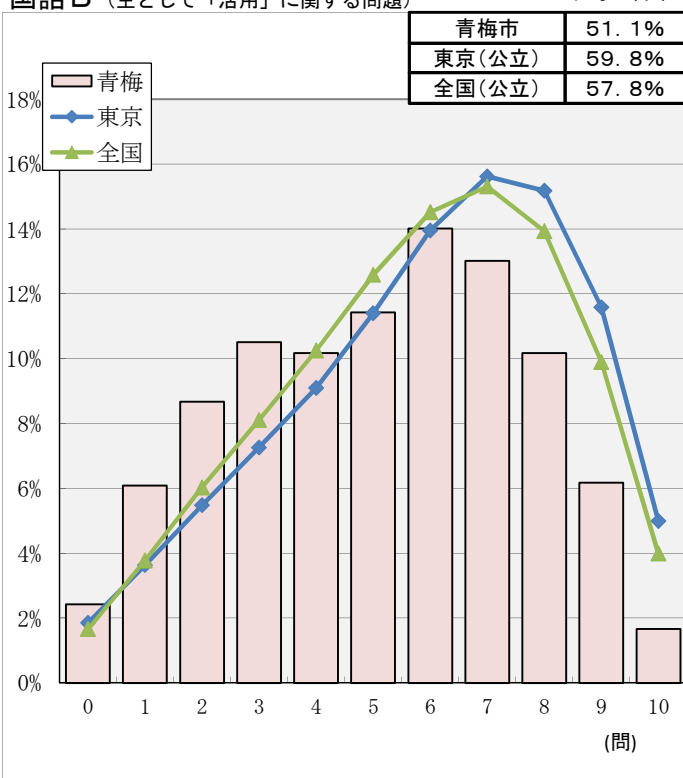
国語A（主として「知識」に関する問題）

平均正答率



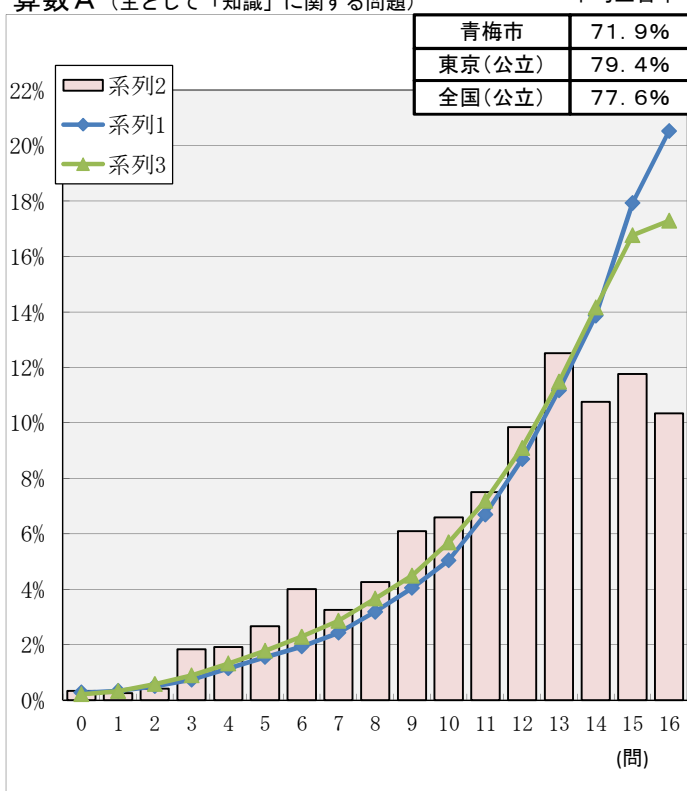
国語B（主として「活用」に関する問題）

平均正答率



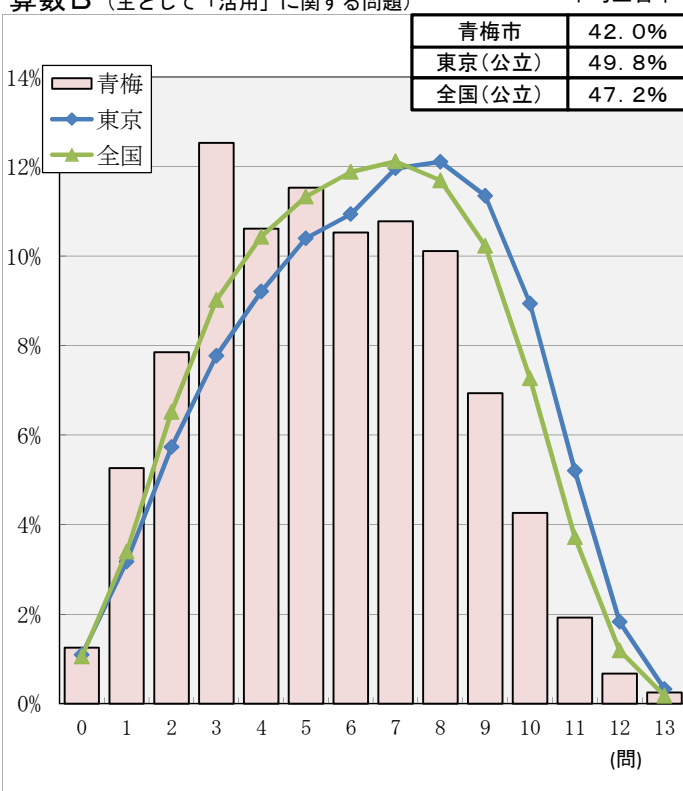
算数A（主として「知識」に関する問題）

平均正答率



算数B（主として「活用」に関する問題）

平均正答率



<結果の概要>

- 国語Aにおいて、全国平均正答率を7.1ポイント下回っており、国語Bにおいて、6.7ポイント下回っている。
- 算数Aにおいて、全国平均正答率を5.7ポイント下回っており、算数Bにおいて、5.2ポイント下回っている。

<改善策>

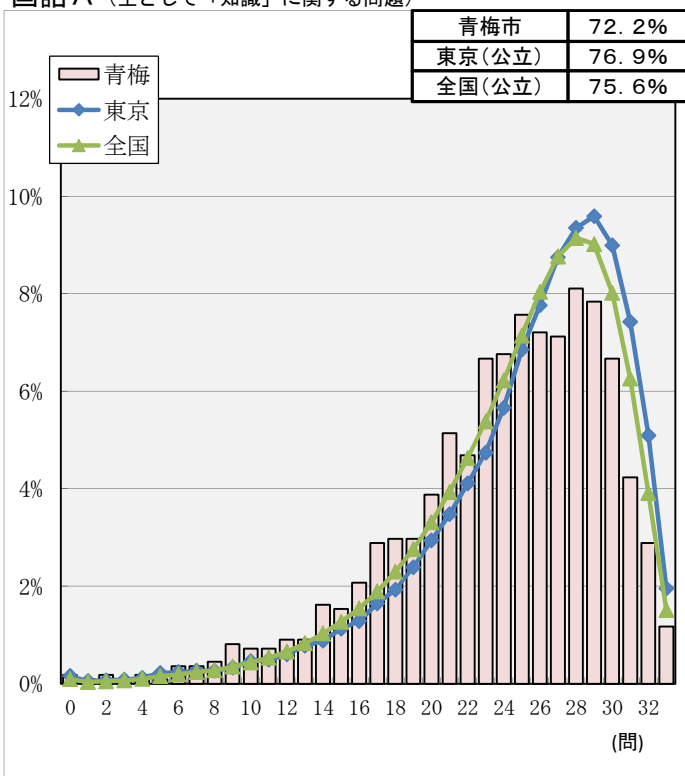
- 学力向上推進委員会において、調査結果の分析を行い、授業改善を図っていく。
- 青梅サタデースクール、放課後学習教室を活用し、基礎・基本の定着を図っていく。

平成28年度「全国学力・学習状況調査」教科別正答数分布(中学校)

グラフの縦軸：人数の割合、横軸：正答数

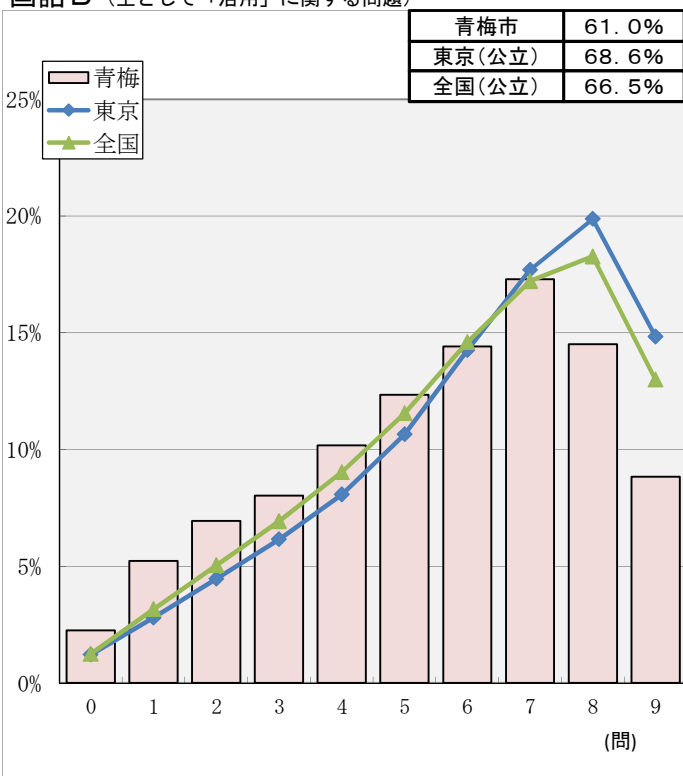
国語A（主として「知識」に関する問題）

平均正答率



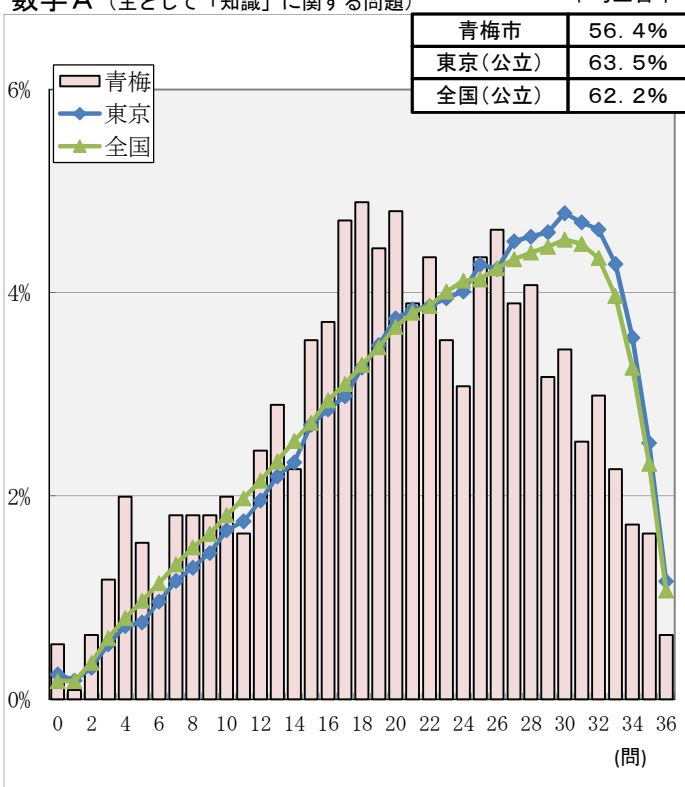
国語B（主として「活用」に関する問題）

平均正答率



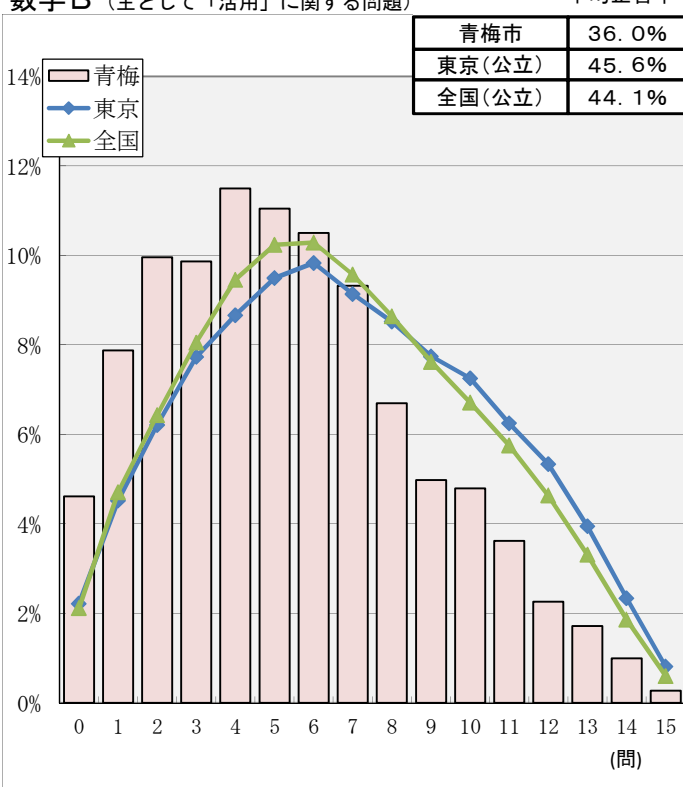
数学A（主として「知識」に関する問題）

平均正答率



数学B（主として「活用」に関する問題）

平均正答率



<結果の概要>

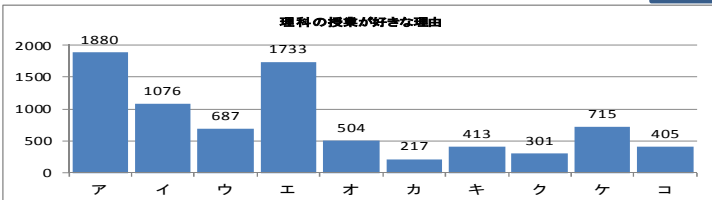
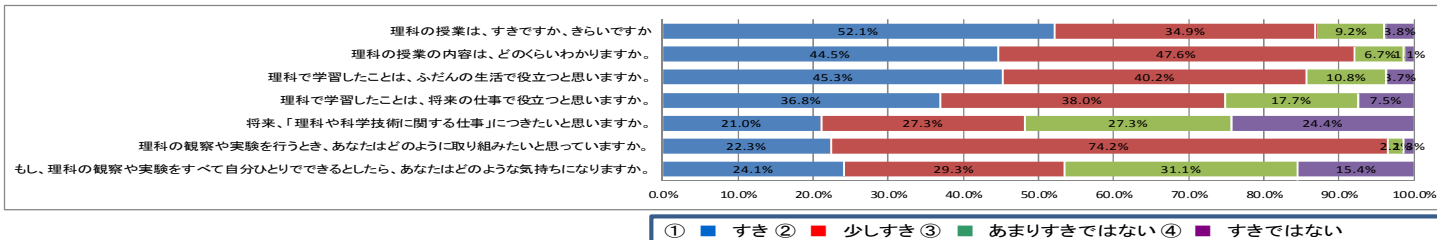
- 国語Aにおいて、全国平均正答率を3.4ポイント下回っており、国語Bにおいて、5.5ポイント下回っている。
- 数学Aにおいて、全国平均正答率は5.8ポイント下回っており、数学Bにおいて、8.1ポイント下回っている。

<改善策>

- 学力向上推進委員会において、調査結果の分析を行い、授業改善を図っていく。
- 青梅サタデースクール、放課後学習教室を活用し、基礎・基本の定着を図っていく。

学力ステップアップ推進地域指定事業 理科調査(第1回) 集計結果

小学校 総計



【回答選択肢】

ア 授業の内容が面白いから

イ 授業の内容がわかりやすいから

ウ 授業の進む速さが自分に合っているから

エ 実験がすきだから

オ 観察がすきだから

カ 理科のテストの点数がよいから

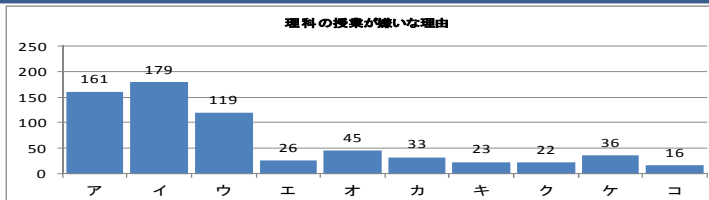
キ 理科は、ふだんの生活で役に立つから

ク 理科は、将来の仕事で役に立つから

ケ 今まで知らなかったことを知ることができるから

コ グループごとに、友達と一緒に活動する時間が多いから

複数回答



【回答選択肢】

ア 授業の内容がおもしろくないから

イ 授業の内容がわかりにくいから

ウ 授業の進む速さが自分に合っていないから

エ 実験がすきではないから

オ 観察がすきではないから

カ 理科のテストの点数があまりよくないから

キ 理科は、ふだんの生活で役に立たないから

ク 理科は、将来の仕事で役に立たないから

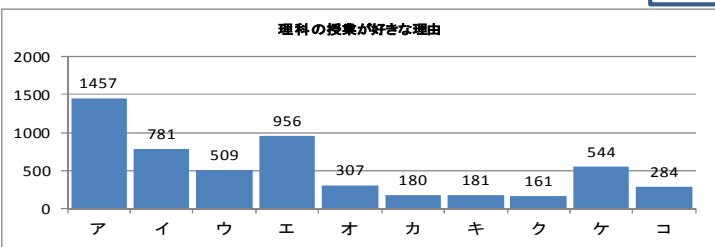
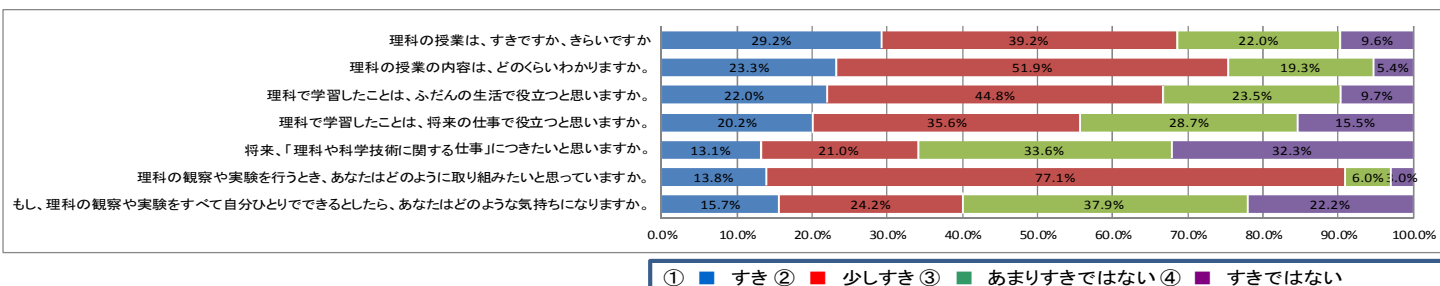
ケ 知らないことについて考えたり、調べたり勉強することが多いから

コ グループごとに、友達と一緒に活動する時間が多いから

複数回答

- ・理科の授業について概ね肯定的な回答であった。
- ・理科を「すき」、「少しすき」と回答した児童は、好きな理由として「授業の内容が面白いから」が一番多い回答となった。次に「観察がすきだから」となっている。
- ・理科を「あまり好きではない」、「すきではない」と回答した児童は、理由として「授業の内容がわかりにくい」を一番多く選んでいる。次に、「授業の内容がおもしろくないから」を選んでいる。

中学校 総計



【回答選択肢】

ア 授業の内容が面白いから

イ 授業の内容がわかりやすいから

ウ 授業の進む速さが自分に合っているから

エ 実験がすきだから

オ 観察がすきだから

カ 理科のテストの点数がよいから

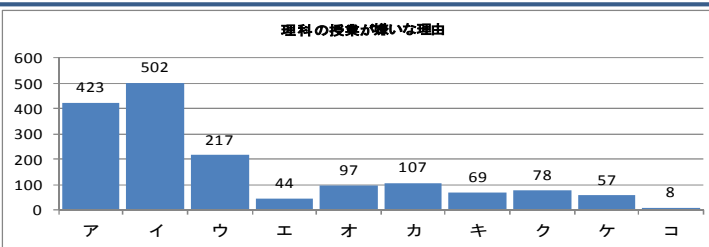
キ 理科は、ふだんの生活で役に立つから

ク 理科は、将来の仕事で役に立つから

ケ 今まで知らなかったことを知ることができるから

コ グループごとに、友達と一緒に活動する時間が多いから

複数回答



【回答選択肢】

ア 授業の内容がおもしろくないから

イ 授業の内容がわかりにくいから

ウ 授業の進む速さが自分に合っていないから

エ 実験がすきではないから

オ 観察がすきではないから

カ 理科のテストの点数があまりよくないから

キ 理科は、ふだんの生活で役に立たないから

ク 理科は、将来の仕事で役に立たないから

ケ 知らないことについて考えたり、調べたり勉強することが多いから

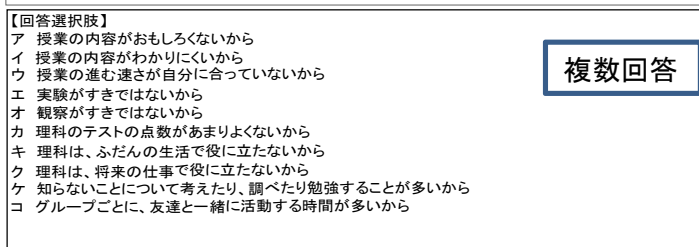
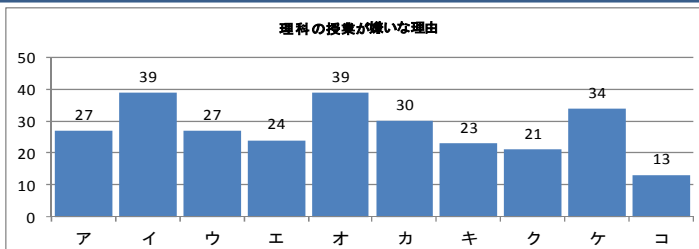
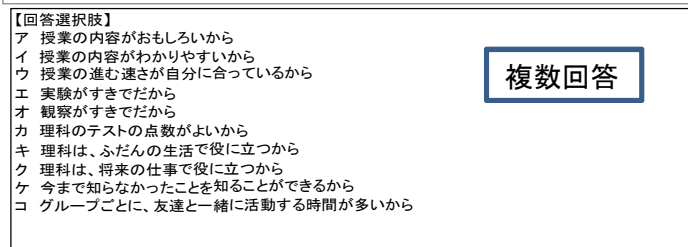
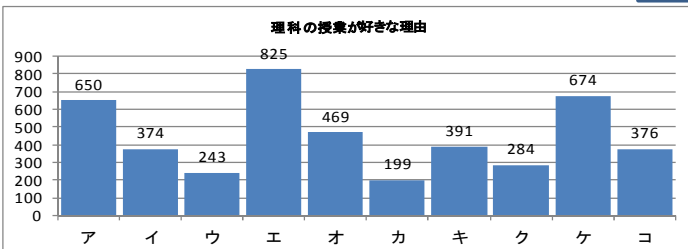
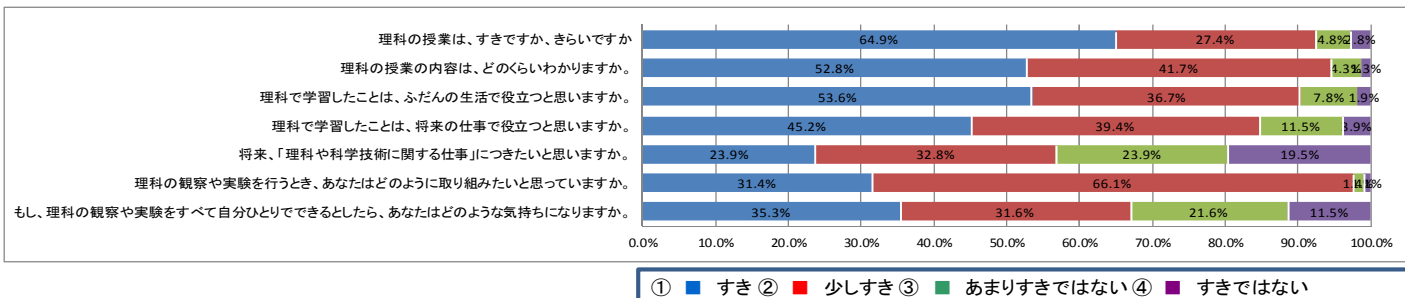
コ グループごとに、友達と一緒に活動する時間が多いから

複数回答

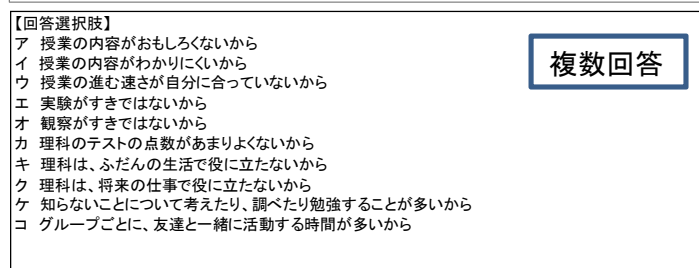
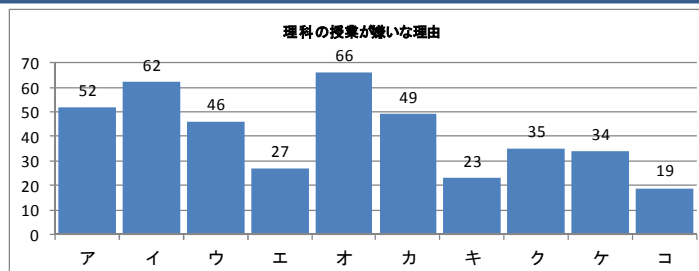
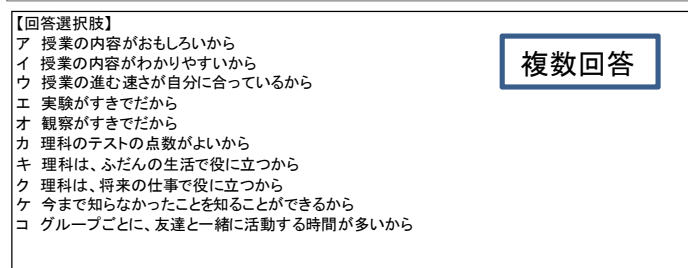
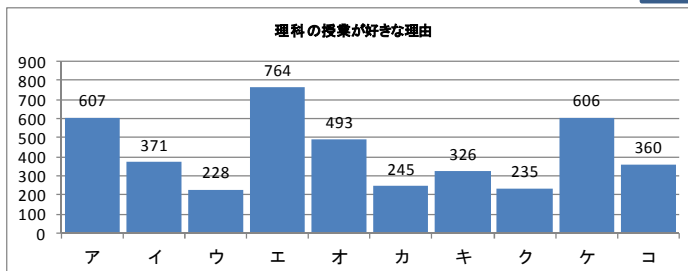
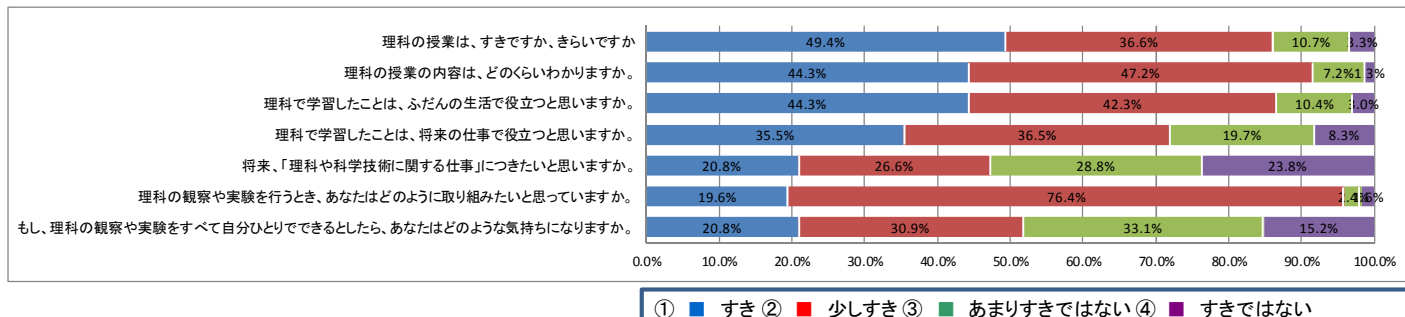
- ・理科の授業について概ね肯定的な回答であったが、小学校と比較すると、「すき」、「少しすき」と回答する生徒の割合が、約9割から約7割に減っている。
- ・理科を「すき」、「少しすき」と回答した生徒は、理由として、「授業の内容が面白い」が一番多い回答となっている。次に「実験がすきだから」となっている。
- ・理科を「あまり好きではない」、「すきではない」と答えた生徒は、理由として「授業の内容がわかりにくいから」が、一番多い回答となっている。次に、「授業の内容がおもしろくないから」となっている。

学カステップアップ推進地域指定事業 理科調査(第1回) 集計結果

小学校 第4学年

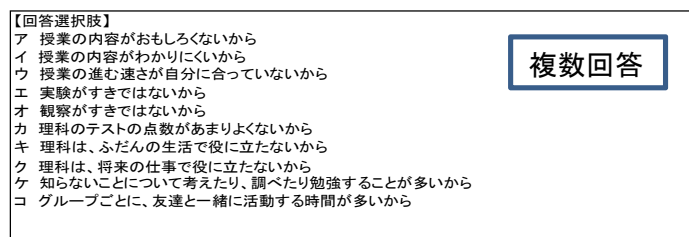
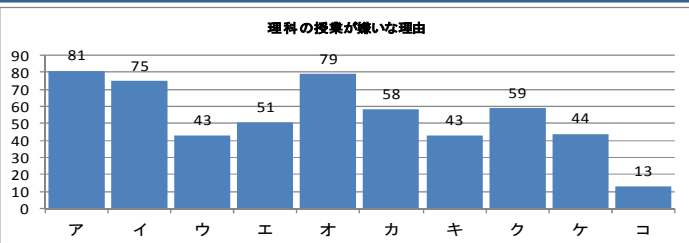
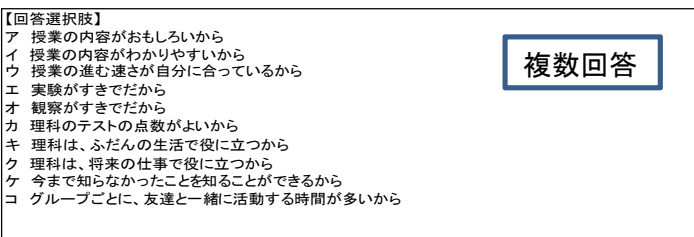
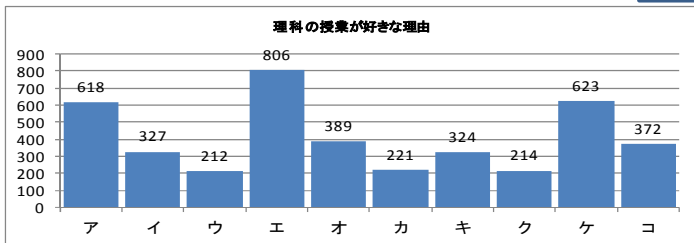
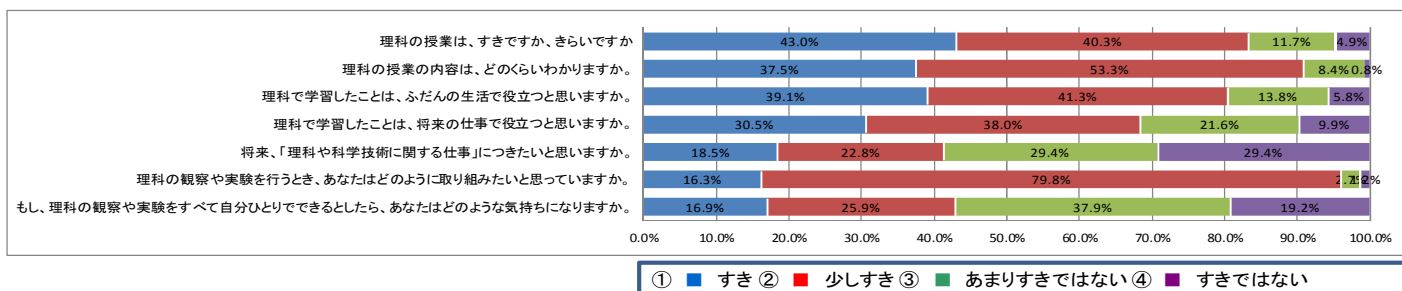


小学校 第5学年

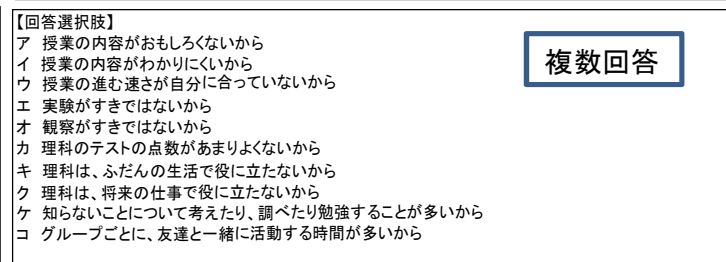
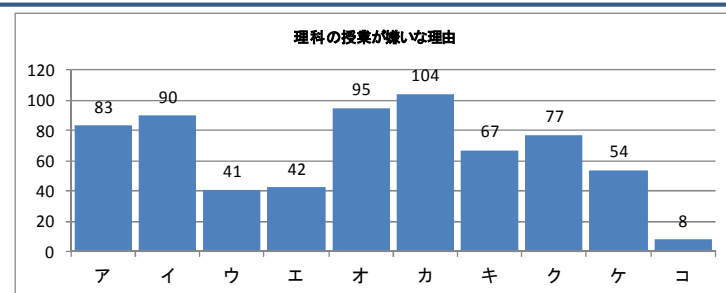
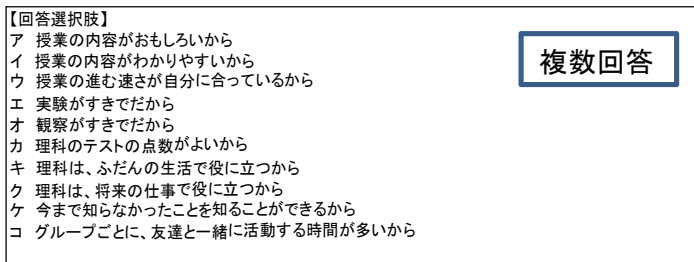
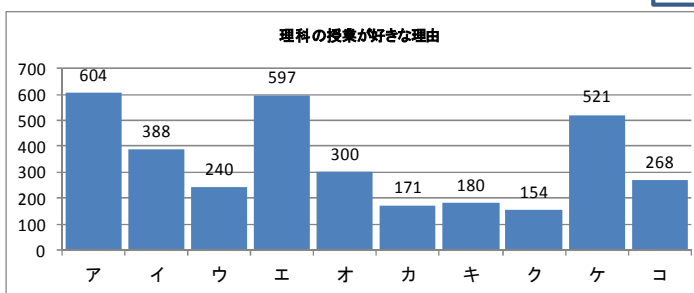
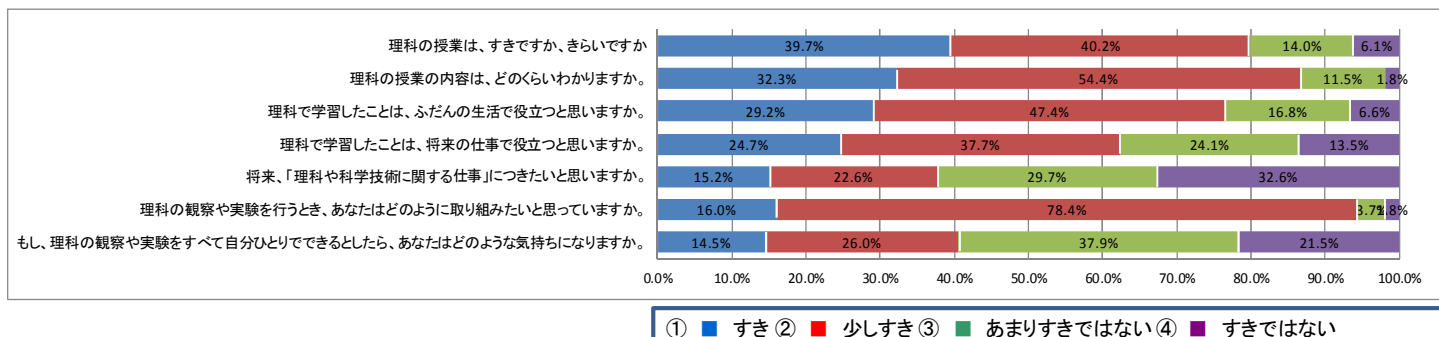


学力ステップアップ推進地域指定事業 理科調査(第1回) 集計結果

小学校 第6学年

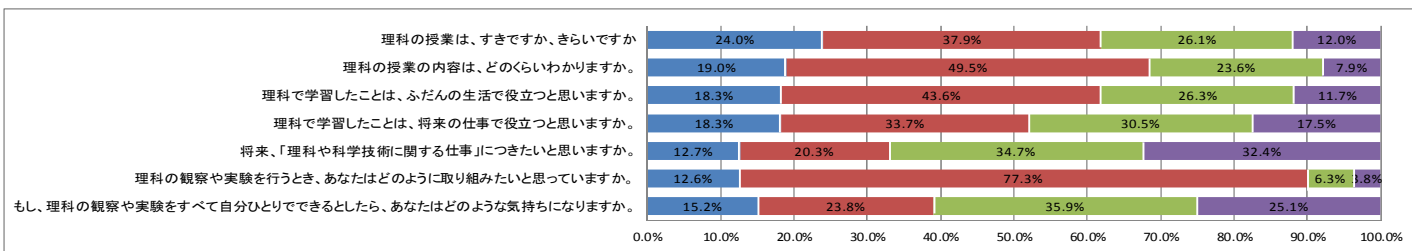


中学校 第1学年

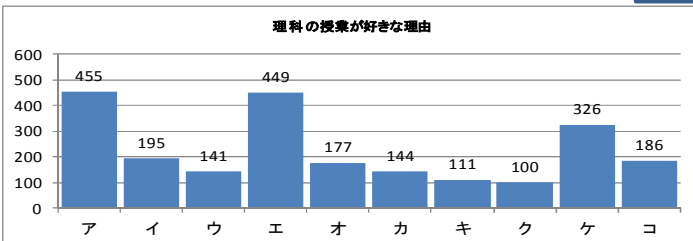


学力ステップアップ推進地域指定事業 理科調査(第1回) 集計結果

中学校 第2学年

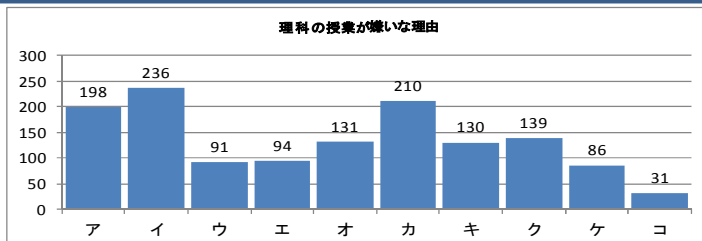


① ■ すき ② ■ 少しすき ③ ■ あまりすきではない ④ ■ すきではない



- 【回答選択肢】
- ア 授業の内容が面白いから
 - イ 授業の内容がわかりやすいから
 - ウ 授業の進む速さが自分に合っているから
 - エ 実験がすきだから
 - オ 観察がすきだから
 - カ 理科のテストの点数がよいから
 - キ 理科は、ふだんの生活で役に立つから
 - ク 理科は、将来の仕事で役に立つから
 - ケ 今まで知らなかったことを知ることができるから
 - コ グループごとに、友達と一緒に活動する時間が多いから

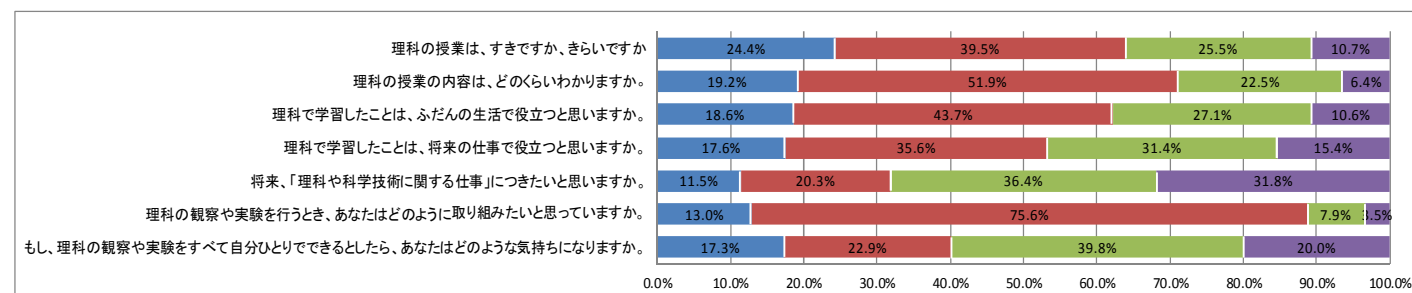
複数回答



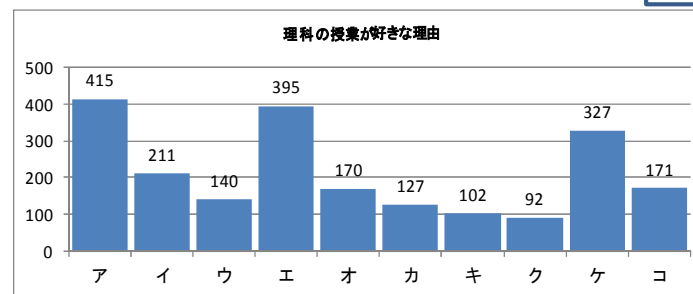
- 【回答選択肢】
- ア 授業の内容が面白くないから
 - イ 授業の内容がわかりにくいから
 - ウ 授業の進む速さが自分に合っていないから
 - エ 実験がすきではないから
 - オ 観察がすきではないから
 - カ 理科のテストの点数があまりよくないから
 - キ 理科は、ふだんの生活で役に立たないから
 - ク 理科は、将来の仕事で役に立たないから
 - ケ 知らないことについて考えたり、調べたり勉強することが多いから
 - コ グループごとに、友達と一緒に活動する時間が多いから

複数回答

中学校 第3学年

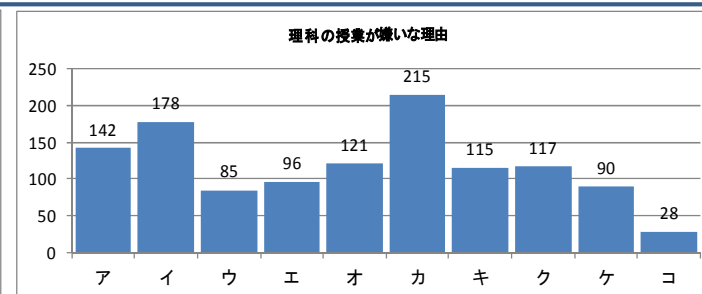


① ■ すき ② ■ 少しすき ③ ■ あまりすきではない ④ ■ すきではない



- 【回答選択肢】
- ア 授業の内容が面白いから
 - イ 授業の内容がわかりやすいから
 - ウ 授業の進む速さが自分に合っているから
 - エ 実験がすきだから
 - オ 観察がすきだから
 - カ 理科のテストの点数がよいから
 - キ 理科は、ふだんの生活で役に立つから
 - ク 理科は、将来の仕事で役に立つから
 - ケ 今まで知らなかったことを知ることができるから
 - コ グループごとに、友達と一緒に活動する時間が多いから

複数回答



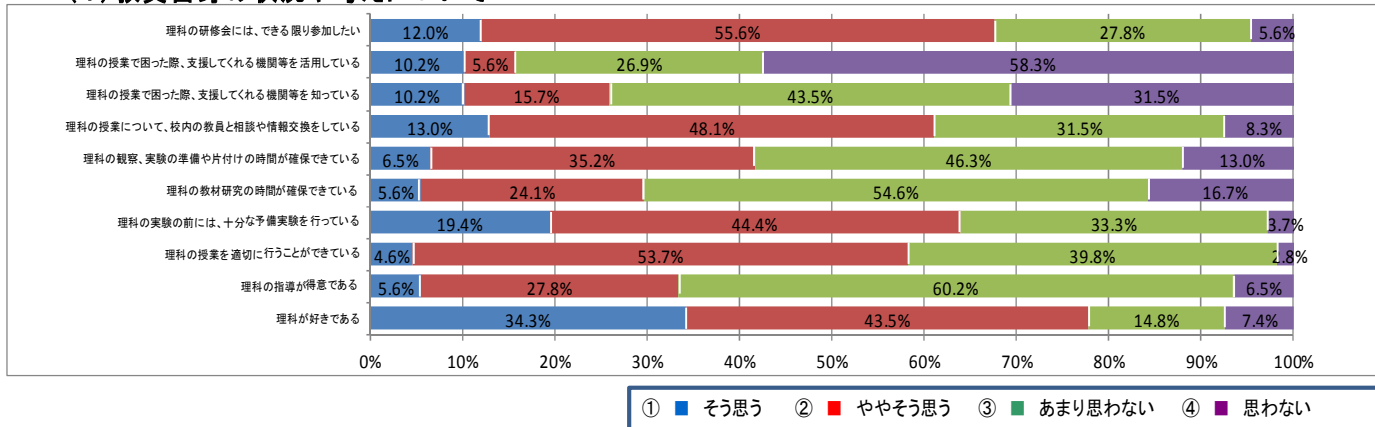
- 【回答選択肢】
- ア 授業の内容が面白くないから
 - イ 授業の内容がわかりにくいから
 - ウ 授業の進む速さが自分に合っていないから
 - エ 実験がすきではないから
 - オ 観察がすきではないから
 - カ 理科のテストの点数があまりよくないから
 - キ 理科は、ふだんの生活で役に立たないから
 - ク 理科は、将来の仕事で役に立たないから
 - ケ 知らないことについて考えたり、調べたり勉強することが多いから
 - コ グループごとに、友達と一緒に活動する時間が多いから

複数回答

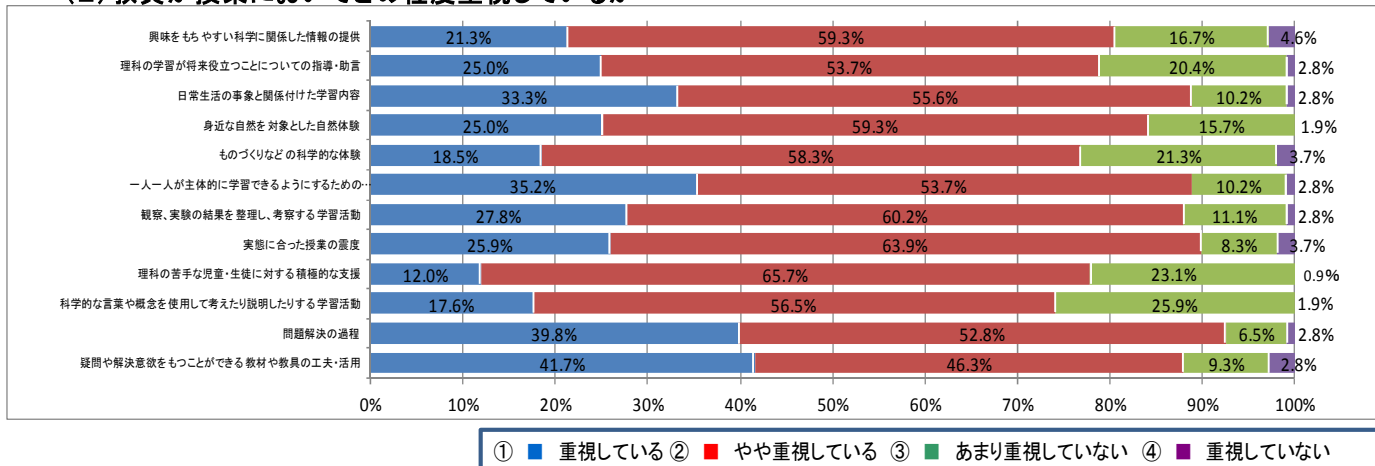
学カステップアップ推進地域指定事業 理科調査(第1回) 集計結果

小学校教員

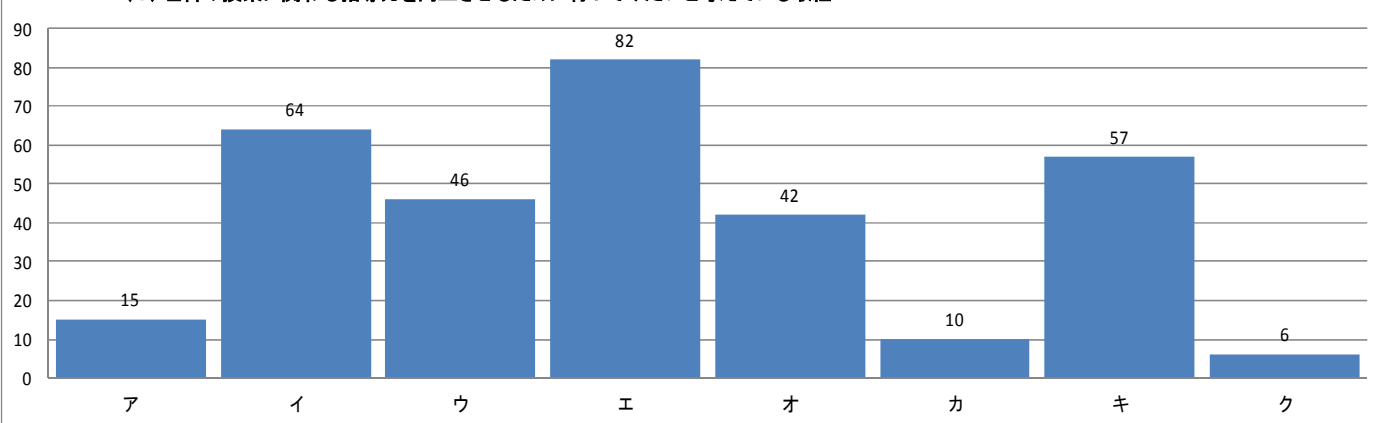
(1) 教員自身の状況や考えについて



(2) 教員が授業においてどの程度重視しているか



(3) 理科の授業に関わる指導力を向上させるために行ってみたいと考えている取組



- ア 理科の研修授業の実施(自身が授業者となる)
- イ 理科の実技研修会(実験器具の使用手法など)への参加
- ウ 理科を得意とする教員とのチーム・ティーチング
- エ 理科を得意とする教員が行う授業の見学
- オ 理科指導に関わる職員同士の協議や情報交換
- カ 管理職による理科の授業観察や個別指導
- キ 理科の専門家による講義の受講
- ク その他

複数回答

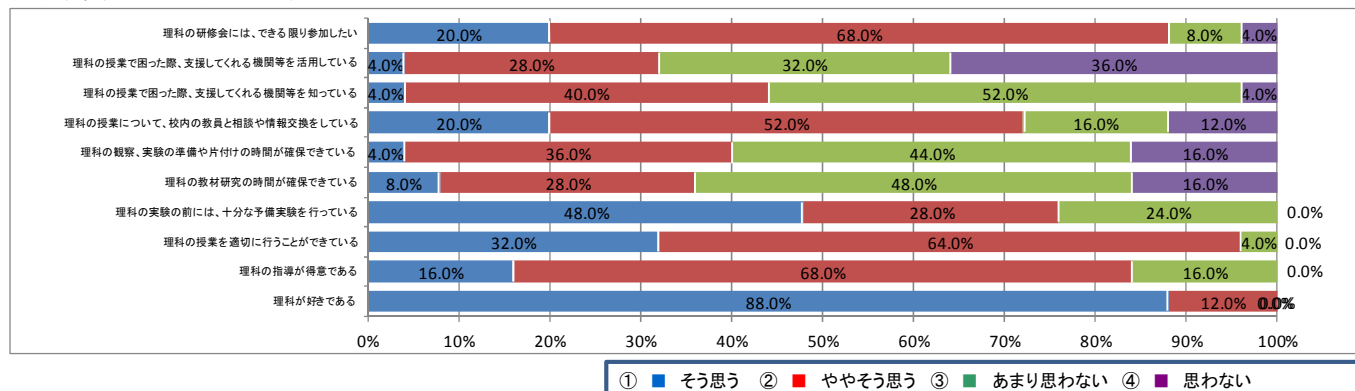
〈その他内容〉

- ・教材研究や予備実験の時間の確保が難しい。
- ・準備・片付けに時間がかかり、担任の負担が大きい。
- ・専科の方が子供には充実した学びとなる。 等

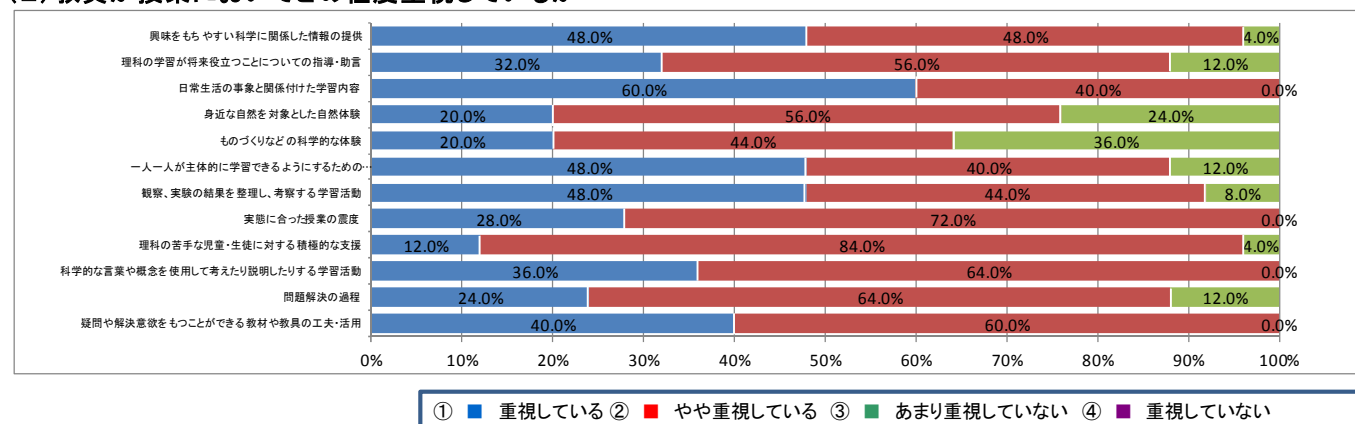
学カステップアップ推進地域指定事業 理科調査(第1回) 集計結果

中学校教員

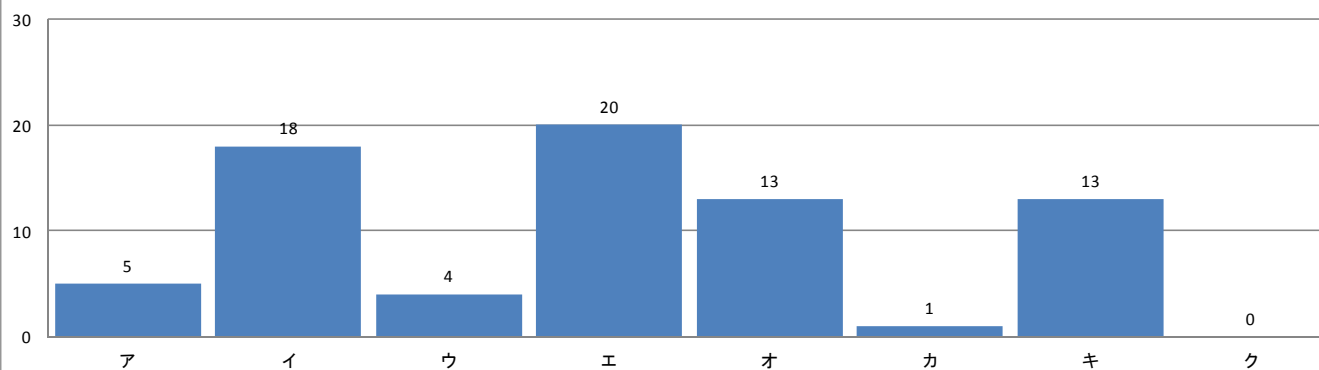
(1) 教員自身の状況や考えについて



(2) 教員が授業においてどの程度重視しているか



(3) 理科の授業に関わる指導力を向上させるために行ってみたいと考えている取組



- ア 理科の研修授業の実施(自身が授業者となる)
 イ 理科の実技研修会(実験器具の使用法など)への参加
 ウ 理科を得意とする教員とのチーム・ティーチング
 エ 理科を得意とする教員が行う授業の見学
 オ 理科指導に関わる職員同士の協議や情報交換
 カ 管理職による理科の授業観察や個別指導
 キ 理科の専門家による講義の受講
 ク その他

複数回答

・小学校教員は、「理科が好きである」に、「そう思う」、「ややそう思う」を含めて、約8割が肯定的な回答をしているが、「理科の指導が得意である」に、「あまり思わない」、「思わない」に、約6割が回答している。
 ・中学校理科教員の約9割が、理科の研修会に参加したいと回答している。